夕刊
磐城新聞
十月五日發行
（日曜祭日翌日休刊）

詩境發刊
記念短歌會素描
吉田傑

五

さうすると小山田先生がさあ十分で作らうと云ひ出した。折もこそあれお隣の室で、謠曲が唸り出した『あゝ謠曲か、いかんなどうも謠がみんなおれの頭を占領する』と赤井さん困り出した。小山田先生は落ち着いて、あゝ俺は大丈夫さと云つてゐるやうに見ゐるが、なかなか出來さうにもないみんなはと見れば、鉛筆と紙とを持つて、苦吟の体が傷ましい、謠曲が、折角組立てた、いゝ所をぶつこわすまたひよろ〳〵と出て來るが唸る謠に押へつけられた。田中君はベランダーに、田部君は廊下に立つて、何やら十五夜お月さんと相談したのか、にこにして室に入つてきた

さあできたできたと加藤君、叫びをあげてトップを切つた。田中君が云ふ、田部君が云ふ、赤井さんが云ふ、出來た、出來たと、小山田先生はまだ出來ない。出來た連中は面白がつて歌を集めて歩く、今三分、今二分、今一分とつめられて行く、もう駄目だめと云ふ何、出來たよとすましこんで小山田先生は、私より先に出來た、私も何書き直してゐたんだと嘯いた

謠は止まぬ。益々興がのつたか、油がのつたか、感丈だかになつてきた

いまいましいな、いゝの出來るのにと、赤井さん怨念の眼で流れ來る謠をハッタと睨みつけた

加藤君の歌から詠む『面白きそぶりに幼兒の口元に梨をさしたる揚枝眞白き』と歌はる

田中君は『滿腹の小揚枝嚼へベランダーに出で見る月よつくづく遠し』と滿腹なのでお月樣と相談して作つたのだと思つたら出で見る月よつくづく遠しと云ふから、諦て自分ひとりで作つたものと見ゐる

『鬢を搔て揚枝嚼へてそゝくさと異人屋敷に今日も行きたり』赤井嶽男さんのです。そゝくさと書いた歌です、これは長崎情緒を出さうと苦心されましたが何分謠曲が邪魔致しましたからこのあたりで我慢して戴くさうです、でなかつたらとても切實な長崎異人屋敷情緒を彷彿さるゝ事であつたらうと、惜しき事共でした

さうしてゐると、田村君がまた『隣りにてしきりにうたう謠をば揚枝かみしめ苦々しく聞きぬ』と苦情を歌に託しました

『爪揚枝嚼へてしばし落ちつきを取り戻しおり歌會はてぬ』と小山田先生は澄しておられます

潮聲硯靜抄帳

病後　何鳴

ゆるされて病薬なんど踏んで見る

銀行の鐵扉の前の夜店かな

梅莚松葉牡丹の咲く中に

庭先にさばしる水や避暑の宿

青物と賣らるる魚籠の餘かな　石城

蟬鳴くや潮騷しつむ松茂み

犬呼べば白きが動く木下闇

網打つや船とゆれおり芦茂み

社會の今日

10月6日

△多田滿仲歿す（長慶二）△マーシャル群島降伏す（大正三）△東京商大生二千、デモで警官隊と衝突五十餘名負傷（昭和六）△勞働爭議調停官會議を内務省で開會△白晝川崎銀行大森支店ギャングに襲はる（同七）

○

柿たわわに實るついぢの上こえて、小法師がせなにとまれるとんぼ　佐々木信綱

祖蹟巡拜草鞋穿きたる露麥日和　句佛

磐新歌壇

新妻久滿夫選

『思ひ』　◎印秀歌　○佳作

○嵐よぶはげしき風に身をもまれ、すこし鎮みし我思ひかな　新美

◎しばたゝく睫毛のぬれに今宵わが、泌むおもひあり人と離れて　田部君子

◎天の川心は星につながれて、思ひしづけく更くる秋の夜　萩原たけ

○思ひ出は友と二人で口笛に、畔蘆靜か吹きし頃をば　鵜沼深水

○思ひ出に今一度友や語りこん、來りて見れば友は無き人

講談　戸隱奇譚　山の怪秘 (7)

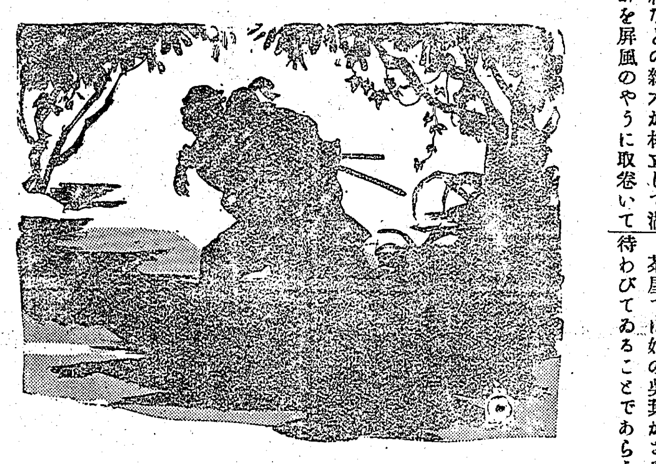
丸山寛雄作　浪木眞畫

古沼の眠り苔（七）

その中にこの土地の名物飯綱颪が出て來たらしい。湖畔の松は激しくうなり出して、空は薄墨を掃き散らしたやうになつた

徹臭い上に異樣な刺戟の強い臭氣、大方この沼の水草の發散するものであらう それが山風に混つて死んだやうな古沼の上を吹き荒れて來た

瀧之丞は、この邊で踵を返さうと思つた。見れば見るほど、何といふ怪しげな古沼であらう。行手一面に廣がる蒼黒い水草帶、その中には何やら、ピカ〳〵光つてゐるのもある。水草帶の其の向ふには、鉛色に澱んだ水面。白蛇でも隱りさうである。岸邊には鮮かな纖細草が生すのやうに生え、その裾には菱やびんろう樹が貝が眞黒に吸付いてゐる。こちらから眺めると、岩に綠草が茅を吹いたやうだ。岸邊の土堤には眞葛、茨、山ぶどう、蛇いちごなどの雜草が茂つてゐる。その上層には黒ずんだ色の老松、もみ、なら、白樺、くげ、柏などの雜木が林立して湖畔を屛風のやうに取卷いてゐる。空は暗いしすべてが無氣味だ



茶屋の爺は瀧之丞の手を取つて虎の尾でも踏むやうな格好で、恐る〳〵水草の上を渡つて行く

瀧之丞は拔き身を鞘へ納め、茶屋の爺の手にすがつて沼の上を行く

『ほら、そろ〳〵見ゐるだ三角の長細い葉。あれがさうだよ。もつと水ぎわへ行くとなは澤山生えてゐる。しつかり手につかまつて來た』

爺は古沼の恐怖を離れて怪奇な探檢をする時の興味心で歩いてゐる。自分だけは絕對に、眠り苔の魔臭にかゝらぬことを堅く信じてゐるらしい

瀧之丞も、今し方人喰閻を一刀の下に征服したせいか、たゞ恐ろしい氣味惡いと思ふ以外に多少、心のゆとりが生じて來たのを覺えた

茶屋では姉の呉葉がさぞ待わびてゐることであらう女心の弱さから、こゝへ來た自分の身をひどく心配してゐるかも知れない。顯光寺の秘佛は、たしかに包に入れて呉葉が傍について護つてゐるだらう。よもや追手は、かゝらぬだらう。それとも誰か追かけて來やしないだらうか。大丈夫まだ自分とは感づくまい。それに靜觀僧都が江戸に在るのだから、寺を留守にしてまで騷ぎ立てないであらう。第一、院代である刈馬平左衛門は自分の責任問題であるから本尊の紛失を内密にして、極力その禍を雛の内だけで濟ますやうにするだらう。しかし、それだけ此方は身邊が危險なわけだ。迂濶にすると何時どこに廻し者がゐるかも判らない

瀧之丞は、こんな懸念に驅られながら、しかし足許は、充分氣をつけながら茶屋の爺に手を引かれて鉛色の水の畔に出ることが出來た

『見なせえ、あれだ、片目の魚てねのは――はやのやうだが、もつと頭が大きいほら、この浮草の蔭に來た群をなして泳ぐのだ』

爺が頓狂な聲を立てたので瀧之丞は、はつとしたやうに指さす水の中をのぞくと、成程、目はあるが更に元來た方へ泳ぎ返して行くのを見ると、頭の反對の側には目らしいものがついてゐない

瀧之丞はこの奇妙な小魚の出現に、のぞき込むやうに小腰をかゞめて見つめてゐると、俄にむせるやうな臭氣を覺えて、眼界がくら〳〵と昏迷して來た。無意識で茶屋の爺に取すがつたまゝ、その場へベタ〳〵となつてしまつた

『おい、お客人駄目だ、こんなところで休んでは……どうしただかね。やッ、いけねね眠り苔が生えてゐらあ……』

爺は咄嗟に氣づくと、そこら一面、とげ〳〵しく角張つた形のねむり苔が生えてゐる。そして自分もどうやらフラ〳〵と夢心地になつて來た

彼等の死

前田勝江

(15) 姙娠

マチ子はさつきから泣いて居た――そして何事かを決心するとその涙にぬれた睫毛をかるく上げながら…

『ネ誠哉さん！私とうに決心したワ、貴方が誘つて下さるならいつでも……』

『………』

誠哉も最後の手段として――總てが彼等に取つて不利な場合はマチ子を死の彼方へ誘ふ事も考へないわけでもなかつた。だがどうして彼として愛するマチ子を死の彼方へ誘ふ事が出來ようか――

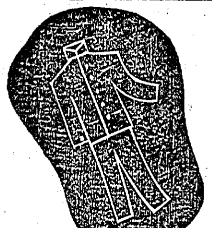
『マチ子さん！貴女を愛するボクとして、貴女を死の彼方へ誘ふ事は出來ない。ボクの母はボクが病身であるだけにどんなにボクを愛して居る事か――それと同じ樣に貴女の母もどんな貴女を愛して居るか知れないんだ。今更――今更こんな事は言はれる義理ぢやないんだが、ボクとして貴女のお母さんにどんなにすまないかわからない。ボクは近頃になつて初めて親と言ふものを知つて來た。ボクとして自分自身父になると言ふ一種不可思議な感情とそして現在貴女の胎内に生長しつゝある未知の子供を思ふ時、ボクとしては貴女を死の彼方へ誘ふ事は出來ないんだ。ネ、ボクのこの心わかつてくれる？』

『だつて――だつて誠哉さん……』

『いやマチ子さん！實はこんな話もあるんだ。それは遠い昔、未だ今日の樣にむずかしい思想問題や經濟問題なんて出來ない封建時代の頃、成る家中の若侍と侍女が愛し合ふ樣になり、やがて侍女は姙娠してしまつたんだ。それで不義は御家の御法度としてきびしい掟はその頃の彼等二人にとつては結局死を覺悟せねばならない。所がいざ死ぬと言ふ時に女が反對したんだ。それは結局六ケ月にもなつた子供の胎動を感ずる樣になつたため、女に今迄隱されて居た母性愛が突然彼女の体中に燃え上つて、どうしても戀しい愛人と死ぬ事が出來なかつたんだ

廣告

黒小倉通學服賣出
一望秋色
さあ御召替です
なかやに皆樣の御滿足の得る品が何時も澤山揃へて御座ひます



小學生用（長ズボン付）
A ……… .90より
B ……… 1.10より
特製品 ……… 2.50より
中學生用
特製6號 ……… 3.50より
御註文（特上）… 6.30均一
ふかや洋服店　平三 電203

開業御披露奉仕
一圓で　お酒に三品（外に口取）
永年谷口樓でお得意樣の御用を勤めましたが今回左記の通り開業致しました。何卒御ひゐきを願ひます。
平町新田町
松富
電話二四七番

小店員數名募集
十三歳より十七歳迄
心身强健なるもの
獨立の際は必ず援助す
（詳細は磐城新聞社宛照會の事）
東京市日本橋區大傳馬町三丁目壹番地貳
内外各種糸物商
株式會社 藤掛商店
電話浪花(67) 〇、三五一番 長五、二四番 二、六四二番
振替東京三、一四〇番 電信略號（フ）受信登錄（トウキヨウフヂイト）

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野悳次
日本齒科醫學士 西川誠
平町田町（松月堂向ヒ）電話五〇九番

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山腦病院
電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店 水戸線下館驛前（電話五五番）
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻油、種油、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三 八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
◇海上給油及油槽所
久慈濱、大津、平潟
小名濱、江名濱

セメント瓦製造
機械製作販賣
日本型 洋型
最新型各種
（御一報次第型錄呈上）
福島縣四倉驛前
萬年瓦工業株式會社
電話三八番

鑑定項目
名前のみで一代の運命何でもわかる
日本名學會東北支部長 鵜沼孝昌
体力（肉体（健康、不健康、相貌）に關する一切。疾病（病根、病勢、病名）に關する一切）
活動（職業（適業、不適業）に關する一切。天運（成功、不成功、災厄）に關する一切）
血緣（家族運（父母の緣、夫婦の緣、子供の有無）に關する一切 男女緣（氣質、相性、相剋、婚期方位）に關する一切）
銀行、會社名、商號、家號、會名、雅號、藝名、養子女姓名、生兒名

難波醫院
内科
小兒科
入院應需
自炊の便あり
平町大町
電話五〇二番
醫學博士 難波睦

小兒科
内科
花柳病科
渡邊醫院
平町ねずみ坂
電話一六一番

吸入用酸素 純度99%
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
計量器
体温器
寒暖計
◎秤ノ取緒・垂糸・修覆致シマス
關内藥局
電話四〇番

商品日掛販賣の權威
日掛は金十錢以上金五十錢までありますが
六ケ月以上御掛けに成れば一ケ年分前貸致します
一ケ年御掛けになれば年五分に相當する配當があります
明日と云はず今直ぐ申込下さい。
平町南町一九
一德合資會社平支店
出張所 四倉町本町九九 湯本町三函二〇一
有給外務員招聘

大運動場に呼應して 圖書館必要論叫ばる

躍進向上の平町民が考慮すべき 靈肉兩方面の急施事項

過般來一部有志によつて盛に論議されつつある平町の大運動設置計劃は町民の体力を增進し因て以て質實剛健なる精神を培ふ一面スポーツ。タヒラを天下に呼號する上に於て眞に緊要な施設として最近各方面に多くの共鳴者を出しつつあるので今や其の實現は蓋し單に時期の問題たるに過ぎぬが之れと相呼應する精神方面の必要施設として町相應の圖書館設置が寄々話題に上せられつつある、即ち現在の平町としては全然大衆とは關はりの無い第一小學校の圖書室がある位に止まり一般の爲不便少からぬものあつたが幾多の急施事項に悩む平町としては之が遷延によつて直接深刻の苦惱無い此種施設迄に手が伸びなかつたのであるが今日思ひ切つて之が計劃に着手すれば町內多數の所謂積ん讀藏書家にして之に應分の助力を吝まぬ向も少からぬ模樣であり、現閣体事務所傍町有地邊を相し最初小規模のものから創めるとせば決して明日を約束出來ぬ問題では無いと觀られ所詮は大運動場に次いで本格的に論議さるる問題であらうと

熊谷と秩父へ 常備消防隊視察

明六日關係者一行出發

平消防組に於ける常備消防隊の設置案は最近愈々具体化したので町では昨四日午後一時から警備委員會を開き種々協議した結果定員、經費其他參考事調査のため警備委員消防、役場吏員十二名は明六日午前零時五十四分平發で二日間の豫定で埼玉縣熊谷市、秩父町を視察する事になつたが實施は來年度になるらしいと、尚舊撤水車は經費三百圓で改造使用する事に決定した

廳により今五日横山署長より表彰狀を贈られた

平署 警官捕賊賞與

今五日付表彰さる

平署左記警官は今五日畑山知事より金一封を添へ捕賊の功勞を表彰された

準强盜傷人横山正吉外二件(柏木刑事)竊盜犯張斗生外一件(草野同)放火及放火未遂伊藤喜一郎外一件(大谷同)詐欺横領犯坂本直三郎(佐藤巡査)放火及放火未遂伊藤喜一郎(金澤、二瓶巡査)竊盜犯張斗生(草刈部長)放火及放火未遂伊藤喜一郎(安藤部長)竊盜犯渡邊秀吉(眞弓巡査)同坂本良平(金田同)放火及放火未遂伊藤喜一郎(橋谷田部長鴨志田巡査)竊盜張斗生(林、佐藤兩巡査)詐欺横領坂本直三郎(佐藤同)放火及放火未遂伊藤喜一郎(川島警部補)準强盜傷人横山正吉外一件(渡部部長)放火及放火未遂伊藤喜一郎(木戸部長及二瓶金澤兩巡査)

工場鑛山の勇士 七百五十名の爭覇

明後七日磐中校庭で 健康保險大運動會

縣警察部健康保險課主催第六回健康保險被保險者陸上運動會は明後七日午前八時から磐中グラウンドに於て開催するが參加は各工場及炭鑛員三大炭鑛を除く約七百五十餘名の多きに及び盛會を豫想されて居る

人口の七割目標に 平局の簡保開拓

目下町を農閑季村落へ

平局去月中の簡易保險勸誘成績は既報の如く中旬より保險部員のみが專心之に當つたためか

成人一九九件、掛金一八〇圓八〇錢、契約高二六二三一圓八〇錢

小兒四六件、掛金二七圓三十錢、契約高五、一三〇圓五十錢

で例月より約一割增の好績を示したが現在の處加入者は市內人口の約六割市外約三割であり同局では之を七割に向上せしむ可く農繁季前は主力を市內に注ぎ農閑期は市外に向け、既に六割以上を完了した責任額の掛金二千圓は十一月末迄に全部完了す可く懸命の努力をすると

十五日より三日間の交通安全デーに際し自發的に交通量の調査其他これが指導整理事務防止宣傳に盡力した

擢稙小路 青年分團

平町才稙小路青年分團では既報の如く去月二

平窪は三割減收

各區長の協議會で 大体の對策成る

郡下の稻作豫想は昨報の如く昨年より約二割二分減と云ふ慘さでさらでだに困憊の極にある農家をして憂慮せしめて居るが平窪の如きも約三割近くの減收を豫想されて居るので過般來これが對策を考究中の處此程村役場に各區長會を開き協議の結果

二毛作の普及、公私經濟節約、政府米拂下申請などによつてこれを補塡する事になり尚目下免租申請のため七割以上減收の稻田を調査中であると

繭再た落調

昨日は高廿八圓

昨四日の四倉繭市は(出廻)一、八七一貫三九〇匁(高)二八、〇〇(低)二一、〇〇(馴)二六、〇〇 二〇掛で二日最高三十圓五十錢、三日二九圓九十錢と漸落を示して來たが今後は二十八九圓を上下するではないかと見られて居る

—一雨運動會に祟る 憎くや

數日來の張り合ひ拔けて 悄氣る職員兒童

一昨三日行はれた平第二校の運動會は一月も前から準備もし先づ天候と津田校長自ら既往の實例から詳細な統計をとり大体晴天の見極めをつけ開始したが朝來の霧雨がひる過ぎには本降りとなつて中止、今五日は午前八時から第一校のそれと共に開始したが之亦朝來の曇天が本降りになつたので第一の篠山校長は薄着の兒童に風を引かせてはと一時中止して辨當は教室內で食事せしむるなど折角の運動會はよく〳〵祟られて了ひ職員、兒童の落膽見るも氣の毒な程であつた

關西救濟義金 平町

の關西地方風水害義捐金は目下各區で取纏め中であるが昨四日迄研古町の五十五圓を最高に累計九十圓五十錢

額の汗を拭ふて 奮闘の成果に笑む

第二運動會受賞者

一昨三日開會半ばに降雨のため中止した平第二小學校の運動會は殘餘と好評物と新規のものを盛つて新プロを編製今五日午前八時より再び開催曇天にもめげず盛會であつた、尚當日の各種(トラック物)受賞牌者左の如し

四年—黒木智子 原トミエ 有賀貞子 遠藤ヤスヨ 長瀬多美 木村ケイ 五年—菊地アイ 大井川淑 花澤アヤ子 丸山テル 木田秀子 格和京子 鈴木ミツ子 天野フミ子 根岸トキ 増尾マサ子 水野ミチ 山野トミエ 六年—大木アサ 飯塚里子 渡邊イノ 長瀬喜美 鈴木カメヨ 渡邊ヒキ 松本千代 星野キヌヨ 佐藤セツ子 高一—飛田リヨ子 小林靜枝 小泉カツヨ 深谷イネ 青木ヨシ 野木美津子 會澤ヨシ 赤坂和子 後藤京子 高二—古川セイ 藤野サダ 佐藤チヨ 中村春子 荒木トキ 伊藤ヨシ

。。。。磐女競技小會 磐女校で明六日放課後競技小會陸上競技(走巾、走高跳)を各學年五名選手行ふ

三等局長會 縣東部

三等局長會第二區では明六日午前十時より平局樓上に於て遞信局保險課東書記臨席の下に保險事務に關する打合會を開く、尚第一區(湯本方部)では今五日山形屋に於て開催

平窪村から

。。。。經濟更生委員會 六日午前九時から第一回を役場で

。。。。寄附一束 字中鹽鐵道機關庫員松山金治氏は退職に際し百圓を同村奬學資金へ 字屋越小野久四郎氏女婿星西治氏は同上雨傘三十本を何れも此程寄附

。。。。收繭共同販賣 下平窪養蠶實行組合では去る一日秋繭の共同販賣を行つたが總貫數七百貫、一貫目二圓七十六錢

。。。。縣營砂防工事 上平窪大澤外二字地內縣營砂防工事は工費三千五百圓で、中鹽荒田地內村直營林道開設工事は工費千五百圓で何れも來月中旬着工の筈

。。。。甲種合格決定 今年度徵兵檢査甲種合格者は抽籤の結果左の如く決定

(步兵)關場良平、松崎茂彌、松崎忠一、松崎信雄、鈴木勝正、福田幸三郎、戸田元善、松崎政元、鈴外—福田久雄、坂本正夫 高田勇美(航空兵)加藤治(特務兵)矢吹敏夫

。。。。風水害義捐金 關西地方義捐金は各戶より十錢以上醵出近く送金

。。。。長十郎梨好績 果樹組合に於て目下出廻り最盛季の長十郎の賣上高は現在五千百五十三圓で出荷先は東京、水戶、助川、青森、値は近畿地方暴風と靜岡、茨城地方の出盛濟みで非常によく何れも喜んで居る

。。。。青訓後援會活躍 此程設立された青訓後援會で目下會員募集中だが特別會員年白米五升、正會員同一升持ち寄る

。。。。產組青年團總會 十六日午後一時から小學校で

ルンペンに餘罪續出

賽錢叩き外八件を自白 愈々近く檢事局送り

昨報—平町住吉屋本店に侵入失敗、起訴猶豫中再た邪道を辿つた高久村上山口生れルンペン前科三犯吉田正元(三三)は渡部司法主任係取調べの結果去月二十五日頃湯本町天王崎八坂神社賽錢箱より一錢銅貨で現金一圓三十錢を竊取した外去月中同町及內郷村の炭鑛地に於て氏名不詳の家に忍び込み衣類、現金、其他八件の竊盜を働いた事自白近く送檢の筈

。。。。小林主事昇給 平局電話主事技手小林太一氏は九月三十日付を以て三級俸に增俸した

。。。。所調選擧立會人 來る十日平町會議事堂で執行の平稅務署管內所得稅調査委員選擧立會人は馬目武之助、荒川淺次郎兩氏に決定

大辻司郎氏を招ぎ 朗かな爆笑の會

青年團で資金造成の催し

平町青年團では資金造成事業として小唄の勝太郎を招聘流行歌會を催すべく計劃中であつたが當人が目下渡滿中なので豫定を變更漫談界の第一人者である大辻司郎氏を招き來十三日午後六時から聚樂館に於て近畿地方風水害實況と併せ漫談とトーキー映畫の夕を開催する事に決定したが大辻氏は來る二十八日世界漫遊の途になく事に決定して居るので今つが當分日本とお別れの會であると前人氣を煽つて居る

平區即決一束

。。。。賭場に居合す 內郷村大字綴字町の內四五無職荒木キヨ(四七)は去る六月十三日湯本町字向田越智新一方で開帳された秦藤次郎一味の賭場に居合せたので此程平區より賭場參集で科料十五圓の略式命令處分を受けた

。。。。橫着な古物商 小名濱町上明神町三古物商遠藤キクは去る五月頃自宅店舖に於て水野久太郎よりボロ布三十七貫、一升入硝子壜十本を買受け乍ら記帳を怠り此程平區より略式命令で罰金三圓

。。。。保安林を伐る 川前村大字川前字山下谷三七農大川原庄吉(七四)は七月二十一日頃同村大字川前字沖流地內保安林で桒に楢立木八本を伐採せしめ森林法違反で此程平區より略式で罰金二十圓に處された

。。。。無免許で運轉 四倉町中町新妻寅吉方自動車運轉助手深瀬祐太郎(三五)は無免許で八月二十七日茨城縣取手町所在の國道でトラックを運轉し此程平區より略式で科料十圓に處された

斷獄短篇 —(2)—

下水に光る帶留め

目先の小慾に眼が眩んで

臍を噛む溝浚ひと不用意な古物屋 之を機に拾つた皮肉劇の色々

北齋の定州に黑い牛を盜まれた者があつた。その牛には頭部に白い毛があつた。定州の刺史王攸は奸賊を捕へる事神の如しと云はれた程の者であつたが、之の事件に早速一策を案じて、此度朝廷に牛皮を奉るので値を倍にして買上げるから所持するものは至急差出すやうに布告した。慾に目のない人々は先を爭つて牛皮を役所へ提出した。その中には件の白斑のある黑牛の皮があつたので盜んだ男は間も無く召捕られた。盜んだ牛皮を刺史の許に差出す處など支那ならでは見られない呑氣な泥棒である

之と同じ筆法で賊を擧げた人に唐の劉崇龜があつた。犯行は夜行はれたもので、翌朝になると現場から程近い船着き場まで血の足跡があつたから船場で調べて昨夜不時に船で出て行つた某といふ青年を捕縛した。けれどもその青年は、女の處へ夜忍んで行つた事は事實であるが、その時既に女は何者かに殺されて居たと云つて飽く迄犯行を否認した

劍は現場に殘つて居た屠獸用の刀から思ひついて屠獸業者を集めて一種の屠獸競技を行つた。日暮れて一同が退散する際各自の使用した刀を殘し置かせて、明日取りに來るやうに命じた そして其らの刀の中に例の美人慘殺に用ひられた刀を密かに混じて置いた

翌日になると人々は續々と刀を取りに來た、最後に問題の一刀が殘つた。そこへ遲れて取りに來た男が『これは私のではありません』と云つた

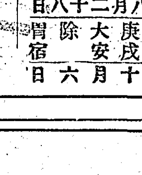
その男を取調べたら件の刀の持主は判明したが捕手を向けた時には賊は風を喰つて逃げたあとであつた。この賊は前記の牛皮の賊より役者が一枚上であつたと見え、事情を察知して早くも逐天したのだ

けれども其後劉が或る死刑囚を夜闇に斬つて、美人慘殺の犯人を處刑したと號した爲賊は安心して歸つたので間も無く捕縛されたと云ふから之の男も亦終に彼の牛皮の賊と五十歩百歩でしかなかつた。と云ふ事になる

六日

日出 五、三九 月出前 三、〇九
日沒 五、一九 月沒後 三、五二
滿潮前三、四五 後四、三〇 干潮前一〇、〇〇 後一〇、二五

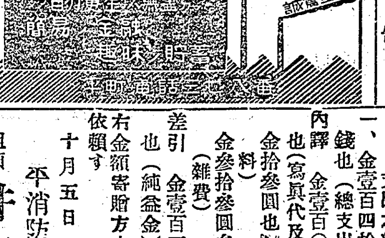
舊八月二十八日 土曜 庚戌 大安 除 胃宿 新十月六日



氣學鑑定 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部

▲一白の人 人事に煩はされて自家の用向は便じ難き日▲二黑の人 營業に直進すべき日他に心を移すは利なし▲三碧の人 凶事ありとも吉事はなし金談成らずはぢあり▲四綠の人 熱心のかひもなく半途にざ折する日爭注意▲五黃の人 運氣一向に進まず萬事差控ゆるが平和安全▲六白の人 せい窮の存する所効果を含めり火難警戒あれ▲七赤の人 常業は順調に進めど他念を起さば後悔あり▲八白の人 萬事好轉すること平野を流るゝ河水の如し▲九紫の人 大發展を遂ぐべき幸運日精勵佈むこと勿れ

廣告



昭和九年十月四日開催關西地方災害義捐金造成防火宣傳

活動寫眞收支決算報告

收入之部
一、金貳百五拾五圓六拾錢也(總收入金)
支出之部
一、金壹百四拾九圓七拾六錢也(總支出金)
內譯
金壹百〇參圓四拾錢也(寫眞代及謝禮世界館)
金拾參圓也(廣告及印刷料)
金參拾參圓參拾六錢也(雜費)
差引
金壹百五圓八拾四錢也(純益金)
右金額寄贈方本日平町長へ依賴す
十月五日
平消防組
組頭 井上茂作

◇移轉 平。五丁目(モリタヤ東隣り小野榮吳服店跡)
美術裝身具、ライター
指輪、時計と眼鏡類
山崎時計店
◇修繕は技術本位然も自信を以て勉强致します

良い運動具は・良い選手を作る
◎野球用具
◎競技用具 ユニホーム類
一チーム分は特別御相談致し升
斷然!!!安賣
競技用スパイク
常に新しき型と念入りな製作
弊店自慢の品 四、五〇
御用は 田町 大塚運動具店 電話七七番

親切ニシテ堅實ニ取扱フ
一、恩給年金低利ニテ立替致シマス
一、各種商品切手賣買
一、各種無盡證書買入
一、諸株式勸業債券。國庫債券。其他各種有價證券現物賣買
石城郡植田町字本町二六
押田憲一事業所
電話(植田)呼出二四番
出張所 平町字古鍛冶町九〇番地 電話一九〇番

內臓外科一般
外科花柳病科
(入院隨意)
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院 電話三〇九